

第3回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

| | |
|-----|---------------------------|
| 日時 | 平成26年10月6日(月) 13:30~15:00 |
| 場所 | 豊橋市役所 東81会議室 |
| 報告者 | 木佐貫敦士 |
| 出席者 | 別紙のとおり |
| 傍聴者 | なし |

1 開会

2 会長あいさつ

○議事録署名者 寺田康生委員、大場博文委員

3 議題

(1) 市民協働推進計画策定に係るアンケートについて

※資料(アンケート案)に基づき、事務局が説明

【市民活動団体向けアンケート】

事務局：4ページの表による回答形式が難しいので、記述式に差し替えたいと思う

委員：回答方法が大変わかりづらかったので、差し替え後の方がよい。

委員：3ページのイラストは、イラスト自体の意見を求めているのであれば不要。アンケート全般は、市民活動を行っている団体であれば大抵回答できると思う。問7は意見を多く書きたいかもしれないので、欄を大きくした方がよい。

会長：「市民」の定義の表現が、他のアンケートと若干記述が異なっている。

事務局：それぞれのアンケートの対象に合わせて表現を変えている。

委員：問7の選択肢が多すぎるのではないか。もっと絞り込んでもよいのでは。

事務局：市民協働推進課だけではなく、他部署の職員をメンバーに入れたワーキンググループをつくり、そこからの意見も取り入れ、市職員が「協働を望まない理由」として考えるものをできるだけ多くあげた。

副会長：細かく書いてあるほうが、いろいろな年齢層に対して親切でわかりやすいので、このままの方がよい。

委員：問19で、構成員のところに「協力してくれるボランティア」という項目を加えてほしい。そういったボランティアに頼っている団体も多い。

委員：構成員に、自治会などの他団体の協力者がいるかを聞いてみてはどうか。

事務局：他団体の協力者については、問9以降の設問によって分析できる。

【自治会向けアンケート】

委員：全体的に文字が小さいのではないか。

副会長：この程度であれば問題ない。

委員：校区自治会長にアンケートを依頼するのに、町自治会の活動内容を答えてもらう部分があるが大丈夫か。

事務局：校区自治会長がほぼ町自治会長も兼ねているため、回答できると思う。

副会長：各校区では、定期的に校区内の町自治会長が集まって会議が行われているため、そういった場で、町自治会の意見を聞きながら回答することができる。

委員：町自治会の意見も取り入れるということなので、問3の質問の「代表者の立場から、」という部分は不要。

事務局：削除する。

【事業所向けアンケート】

委員：回収率はどの程度なのか。

事務局：市民協働に関する事業所向けアンケートは今回が初めてとなる。

会長：一般的に、郵送によるアンケートだと3割程度の回収率というところ。

委員：事業所名の記入は必要なのか。以前はいろいろな社会貢献をしていたが、今は状況が大変なのでやっていないというところが多いと思う。そういった事情があるところだと事業所名が書きづらいはず。無記名の方がアンケート全体について回答しやすい。

委員：社会貢献活動に力を入れてやっているところは、逆に事業所名を書きたいかもしれない。すべての事業所に事業所名を記入してもらう必要はないので、記入してもらえるところだけ事業所名を書いてもらえばよい。

事務局：回答内容によっては、市からその事業所へ問い合わせをしたい場合がありうる。

副会長：連絡先の欄は「差し支えなければ記入して」という文言を添えてはどうか。

委員：協働を推進するために、他団体とのマッチングさせたり、市民協働に関心がある事業所にはこちら側から連絡をしてでも協働に携わってもらいたい、ということであれば、連絡先の欄はある方がよい。

会長：問1をアンケートの最後のページに移動させ、「差し支えなければ記入してください」「可能であれば事業所名を記入してください」といったように、少し文言を訂正した形の設問にするということ。

また、以前から寄付金がなかなかあつまらないという課題が出ているので、寄付金に関する設問を設けてはどうか。

事務局：問20に、今後実施したい協働の方法として寄付金・助成金等という項目がいられている。

委員：トヨッキー基金への協力につながるような設問ができるとうい。

【職員向けアンケート】

委員：回答率はどれぐらいになりそうか。

事務局：6～7割ぐらいと思われる。

会長：事務局にはなるべく回答率を上げるように周知をしてもらいたい。

(2) 市民協働推進補助金 本審査（公開プレゼンテーション）と申請方法の見直しについて

※資料に基づき、事務局が説明

【ア 本審査（公開プレゼンテーション）見直し】

委員：会場審査点は、公開プレゼンテーションを最初から最後まで多くの人に見てもらうのが目的。会場をオープンフロアに変更しても、会場審査点は残しもよいのではないか。今までどおり、最初から最後まで見た人だけ審査ができるという方法でどうか。また、審査会場からの質問については、時間がかかることが問題となる。

委員：市民からの質問について、どのような方法なのかイメージがわからない。

事務局：申請書を公開して市民からの質問を受ける方法とオープンフロアで申請団体によるプレゼンを行った後に、その会場にいる一般の観覧者から質問を受ける方法を考えている。

委員：公開プレゼンに参加した団体の代表者に持ち点を与えて、審査に参加させるのはどうか。他団体のプレゼンも見られるようになるのではないか。

事務局：他都市でそういった他団体が他団体に審査点を入れる事例がある。

これまでの公開プレゼンについて、参加者に行ったアンケートでは「応援したい団体がある」という理由であったため、いろいろな人に身近な市民活動を見てもらうために、会場をオープンフロアへ移動しようと考えている。

会場からの質問については、事前公表の段階で質問を受け付ける方法で、市民の意見は拾うことができると考えており、プレゼン当日にその場で質問を受け付けする予定はまだない。

委員：公開プレゼンの時間と場所が重要。市民センターで毎年開催されているオレンジフェスタの中で開催するなど、他のイベントと合わせる方法もある。

事務局：週末の「ここにこ」で開催することも考えたが、まず試験的に開催する方法として、市役所の中で最も人が集まる1階のオープンフロアを考えた。

委員：平日の市役所で人が集まるか心配。

会長：意見の集約をする。

会場についてはオープンフロアでの開催に変更。

会場審査点はこれまでも審査結果に影響が少ない点、多くの人にみてもらうことを優先するというので、とりあえず廃止。

審査会場からの質問受付については、時間的な問題と、質問に差が出る懸念があるため、やめることとし、事前に質問を受け付ける形とする。

今年度は市役所1階のオープンフロアで平日に開催し、協働という観点で職員にも多く観覧するように周知する。

今年度、実験的にこの形で開催してみて、次年度また問題点等を検討するというのでお願いしたい。

【イ 申請方法の見直し】

会 長：つつじ補助金の申請をもっと増やすための見直し。様式等を簡略化し、初めての団体にもより申請しやすいようになっている。資料のとおりの見直しを図るということでよいか。

委 員：意義なし。

4 その他

委 員：市民協働推進計画について、今後アンケート調査を実施して次期計画を策定するにあたり、計画内の事業に優先順位をつけ、これだけは「できた」と言えるようにしなければならないと思う。

事務局：アンケート調査を行いながら、今後の策定過程で重点項目を検討していきたい。

委 員：市民協働に関する市の出前講座はあるか。

事務局：校区コミュニティに対して年2～3回ほど行っている。

5 その他

次回は、

平成26年11月5日（水）13時30分～ 開催

6 閉会

平成26年11月5日

議事録署名者

寺田 康生 ⑩

大場 博文 ⑩

第3回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

| NO | 氏名 | 選任区分 |
|----|-------------------|----------------------------------|
| 1 | イワサキ マサヤ 岩崎 正弥 | 学識経験者 愛知大学地域政策学部教授 |
| 2 | オオバ ヒロフミ 大場 博文 | 豊橋市社会福祉協議会から推薦 (豊橋市社会福祉協議会職員) |
| 3 | コバヤシ コ 小林 てる子 | 豊橋市自治連合会から推薦 (豊橋市自治連合会常任理事) |
| 4 | コバヤシ ヨシキ 小林 芳樹 | 公募 (梅田川フォーラム) |
| 5 | セガワ チトシ 瀬川 千敏 | 公募 (豊橋防災V Cの会) |
| 6 | ソウ ダ サトミ 惣田 里美 | 豊橋商工会議所から推薦 (豊橋商工会議所女性会会長) |
| 7 | テラダ ヤスオ 寺田 康生 | 市民センター指定管理者から推薦 (NPO法人 愛知ネット) |

※山崎麻乃委員は欠席

《事務局》

文化市民部

市民協働推進課 課長 中山 久美子
 主幹 村田 直広
 課長補佐 小久保 雅司
 主査 味岡 達也
 主査 菰田 直美
 主査 中澤 浩英
 主事 木佐貫 敦士
 主事 山口 知沙世